

LINEで継続的服薬フォロー

ユニケソフトウェアリサーチ「P-CUBE n」

ユニケソフトウェアリサーチの電子薬歴レセコン一体型システム「P-CUBE n」は調剤後の服薬期間について継続的なフォローアップを支援するサービス「フォロナビ」を標準搭載している。電子薬歴とLINEを活用することで、薬剤師と患者のコミュニケーションをアシストし、効果的な服薬管理と患者・薬剤師の負担軽減を実現する。

2020年9月に施行された改正医薬品医療機器等法で薬剤師による継続的な服薬フォローアップが義務化された。同年4月の調剤報酬改定で設けられた「服薬管理指導料」でも、継続的な服薬フォローアップが算定の条件とされている。

「P-CUBE n」は、「電話や対面だと時間が取れない」「スケジュールやタスクの管理が煩雑」「どのようなフォローをすれば良いかわからない」「薬

剤師のスキルや経験によってフォローアップのレベルにバラツキがある」といった薬局が服薬フォローアップを行う際に直面している課題を解決するサービスとなっている。

具体的には、「P-CUBE n」に標準搭載されているフォロナビの機能により、電子薬歴から患者のLINEにフォローアップメッセージを自動送信でき、フォローアップの実施が可能。フォロナビの管理画面からメッセージの予約送信を行えるため、服薬に関するフォローからリフィル処方箋の期限お知らせなど、患者のライフスタイルに合わせたサービスの提供が行える。

また、送信されるフォローアップコンテンツは処方された薬剤や患者の状態に合わせて、医薬品や疾患、患者の生活状況確認、使用状況確認など12カテゴリ、41種のコンテンツから最適な

内容を選択するだけでフォローアップを行えるため、薬剤師の経験やスキルに依存することなく、質の高い服薬管理が実施可能だ。

フォローアップを受け取る患者も、電子薬歴から送信された質問に対する回答を選択するだけで返信を行える。回答内容によっては体調や副作用の確認、アドヒアランスの確認など自動で新たな質問を投げかけ、患者の問題解決を促す。

電子薬歴のメイン画面には患者の処方内容より服薬フォローの必要有無をアイコンで表示。薬剤師が忙しい場合にもフォローアップを必要とする患者を見逃さない仕組みを整備している。

LINEでのフォローアップとやり取



りは全て電子薬歴に転送され、取り込むことが可能。フォローアップの薬歴入力とその情報をもとにしたトレーニングレポートを効率的に作成でき、薬局・薬剤師業務への負担を軽減し、多くの情報を医療機関に提供することができる。

こうした多様な機能が強みとなり、フォローアップに取り組む薬局からも多くの引き合いが来ているという。

保険薬局のDX実現を加速

ノアメディカルシステム

「NO@H FOR THE PHARMACY V7」

ノアメディカルシステム（福岡市）は、調剤薬局支援システム「NO@H FOR THE PHARMACY V7」（ノアフォーザファーマシーバージョン7）の販売を9月から開始した。

「NO@H FOR THE PHARMACY V7」は、25年以上にわたる薬局ユーザーの要望を調査研究し、レセコンに求められる基本機能である「入力」「チェック」「投薬」「会計・請求」に至るまでの一連の業務を、快適・簡単に行えるようにバージョンアップしている。

処方入力には「今回・前回の処方比較」を確認できるように処方比較画面を配置して、患者情報等の分析・評価ができ、適切な処方監査につながる。画面デザインは、フルHDの解像度に対応したワイド画面に「新化」し、必要な情報を分かりやすく配置。2022年度調剤報酬改定内容に沿ったリフィル

処方箋の入力、表示も正確に行うことができる。

ファイリングシステムでは、処方箋をスキャンした画像を見ながら医療従事者が処方入力、薬剤師は処方箋の原本をもとに処方監査・調剤と同時に行える。取り込んだ画像は、患者データとして保存でき、投薬ミスの防止や患者からの問い合わせ、監査時の記録として活用できる。

また、医療事故防止のチェック機能として、医薬品データベースによる相互作用、病態などの自動チェック機能のほか、薬物動態学的セーフティマネジメントシステム「PHACOSAM」（ファコサム）では、TDM対象薬物・小児薬用量の薬物動態的評価、そして腎機能評価予測値を推算することで腎排泄型薬剤の処方監査の強化につながる。

オプションの在庫管理システムを導



入すれば、処方入力時に薬剤の在庫数の確認が可能となり、発注タイミングも容易に判断できる。

さらに、連携する電子薬歴システム「SOAP.Q&S i-PROUD」（アイクラウド）は、従来からの基本性能はそのままに、前回処方に薬歴で次回確認したいことを申し送りとして記録し、再来時の調剤前に確認したい事項をポップアップさせて、薬歴管理の継続性を実現し、質の高い安心・安全な薬物治療を実現する。

レセコン一体型の利点として、オンライン資格確認での薬剤情報、健診情報の取り込みなどシームレスに連携することが可能。

2025年3月を目標に掲げられている電子処方箋の普及においては、オンライン資格端末と全てが同一ネットワーク内にあることから、電子薬歴システム側でH P K Iカードを用いて薬剤師が調剤確定や疑義照会内容を報告し、電子処方箋サーバに返すことができるという大きなメリットがある。

薬事日報 新聞+電子版

読みなれた新聞やパソコンだけじゃなく
スマートフォンだとこんなに便利!

- ・外出中に…
- ・通勤中に…
- ・出張中に…

スマートフォンでいつでもどこでも薬事日報

新聞1年契約なら **+5,500円/年** (税込)

〈詳細やお申し込みは〉
<https://www.yakuji.co.jp/>

スマートフォンは **こちらから>>**

第55回 日本薬剤師会学術大会 (順不同)

株式会社 ジョヴィ

代表取締役社長 人見 比出樹

〒542-0081 大阪市中央区南船場四丁目二番四号

電話 〇六(六二二五)七〇〇八

株式会社 I L ファーマ パッケージング

代表取締役社長 森 雅弘

〒491-0804 愛知県一宮市千秋町佐野字清水十

電話 〇五八六(七六)一六一二

株式会社 常磐植物化学研究所

代表取締役社長 富山 泰

〒389-0697 長野県埴科郡坂城町大字上五明字東川原一九八

電話 〇二六八(八二)二二二一

小松屋株式会社

代表取締役 小 林 宏 輔

〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町一丁目一八

電話 〇六(六二七)六三〇〇